

VVVVVVVVVV

統計ろんだん

^^^^^^^^^^

統計の普及と利用について

私が企画調整係を担当して9ヶ月になる。それまで、各種の統計調査の実施等について、いろいろ経験もし、勉強にも心がけたつもりだった。しかし、そこに中核となるものは、なんといつでもどうしたら統計事務を円滑に推進できるかという問題であろう。事業の計画設計にしろ分類、整理にしても、どうしたら最も迅速に調査票を蒐集できるだろうかということに精力がむけられ勝ちである。したがって調査結果の効率的な利用面について話し合いは必ずしも充分とは言えなかつたし、たまたま1つの問題点が提示されないかぎり、それ等について真剣にとり組めない有様で、このことは反面、統計調査の実施という問題が、そうした余裕を与えないほど困難性を帯びているのかもしれない。

しかし、この問題にしても、統計課として全く無関係に放置しておくわけにもいかない。庁内各課はもちろん、民間企業の統計資料の需要は日に増大し、来訪者、あるいは照会電話等が絶えたことがないのである。資料の蒐集については幸い行政資料室の活用をお願いするわけであるが、各面の利用の方法、資料の有無、加工の方法等、係員はその応接にいとまがない現状である。したがって、こうした面の充実と相俟つて、統計の普及振興についても充分認識を新たに必要があろう。

課内の統計協会では毎年小・中・高校の児童及び一般人を対象に統計グラフの募集を夏期に行なっている。世の中のいろいろな出来ごとをわかりやすく表現する1つの手段としてのグラフ作成を通して“統計的なものの見方、考え方”を勉強してもらおうというわけである。いわゆる統計教育活動の1面である。

統計教育推進体系としては県教委指導課の指導主事をおして各学校の教科のなかで“統計教育”の浸透を図るわけであるが、昭和44年度は関東ブロック各地のこうした現場の先生方の研究成果の発表が白帆荘において行なわれることになつている。

県内の各小・中学校の教室でも、毎日の学習過程のな

かで静かにこの問題についての研究が行なわれているのである。すなわち、ある目的を設定し、必要な統計資料を蒐集し、それをわかり易く分類、整理し、その資料から推論、判断の道を発見しようとする試みを学習のなかで、どのようにとりあげていつたらよいかということである。

私たち、統計関係者にとつて本当に心強い運動といえるわけであるが、こうした小・中学生を対象とした運動以外に東京都及び神奈川県では家庭婦人層を対象に統計の普及に努力している。43年度に埼玉県でもこの問題に取り組み“物価と景気動向”と題しての講話、座談会が婦人層を対象に計画され、好評を博したという。

この他にもP・T・A活動の中にとり入れるとか、家庭と縁の深い物価問題をひつさげてこうした統計の普及に乗り出した先進県の業績を他山の石として傍観してはいられないのである。今年度は、こうした分野の開発にまい進したいものである。

昭和44年度から45年にかけて、統計関係者にとつてはまことに多忙な年でもある。統計調査の円滑な推進は勿論大切なことであるが、大きな労力と時間、費用等を費して得た数値の利用についても充分考慮しなければならないであろうし、44年度の事業所調査、1970年世界農林業センサス、45年の国調等、いずれも周期的大調査の実施年でもあるので、過去の統計資料を総括的に整理するのに便利な時期でもある。したがって、各市町村においても要覧等の編集にとりかかる段階に入るところもあるだろうし、こうして、地域住民をおして統計資料に親しんでもらうことが、統計の円滑な推進力の母体でもあるのではなからうか。

いずれにしろ、統計という事業は個人の労力では達成でき得ない代物であり、多くの集団の汗の蓄積によつて花開くものであるから、今後とも各界の御協力を期待したいものである。

(県統計課横須賀弘)